

# オンラインを活用した 遠隔服薬指導の有効性



きり薬局 原 敦子

## 第3回 遠隔服薬指導の取り組みのポイント

### 遠隔服薬指導は

#### どのような手順で取り組みばよいか

当局が所在する福岡市では、100歳まで生きるのが特別ではなくなる「人生100年時代」の到来を見据え、保健医療という分野から、誰もが健康で自分らしく生き続けられる持続可能な社会システム「福岡100」を実践しています。行政だけでなく、保健・医療・介護分野の専門職、企業、大学などが協力し合い、個人と社会、どちらも幸せになれる健寿社会モデルを目指す環境が周りにあったのです。

2017年春、遠隔服薬指導に先駆けて「ICTを活用した『かかりつけ医』機能強化事業」の実証が市内で開始されました。いわゆる「オンライン診療」です。これが始まったことで、薬局のオンライン服薬指導が始まるのもそう遠くないと感じていました。予測していた通り実証事業の結果からも、その普及には、処方・薬の配送・服薬指導までを含めてオンラインを用い、医師・薬剤師との連携ができることが望ましいという結論が得られています。

オンライン診療の実証事業から約1年後の18年6月15日、福岡市より遠隔服薬指導の実施について案内が交付されました。当局が普段より訪問指導に何う地域も実施区域に選ばれていました。その地域は当初、訪問指導で何うには時間がかかり採算が合わないと考えていたところ。地元のケアマネージャーより、「薬が必要な方はたくさんいるのに薬局がない、何とかならないだろうか」と相談があり、訪問指導を始めた経緯がありました。薬剤師が毎回訪問する負担を軽減できると期待し、遠隔服薬事業への参加に名乗りを上げたのは言うまでもありません。

まずは遠隔服薬指導事業実施要綱に基づき、薬局の登録が必要です。その前に準備しておくことがいくつかありました。下記にご紹介します。

#### ①テレビ電話ができるデバイスの用意

オンライン診療の実証事業でも用いられたインテグリティ・ヘルスケア社の「YaDoc」システムを導入しました。患者さん3名までは使用料は無料。ネット環境があればパソコン・スマートフォンなどを用いてどこからでもアクセス可能です。対象利用者さんのご自宅にネット環境がなかったため、実証事業の期間のみ同社よりデバイスを貸与してもらいました。薬局側の用意として

必要なものは、パソコンと外付けのカメラのみで、初期経費は全くかかっていません。

#### ②利用者からの遠隔服薬指導の申し出

もともとオンライン診療を受けていたこと、訪問指導をしていたこともあり、申し出がありました。

#### ③遠隔服薬指導を適切に実施するために必要な業務に関する手順を定めた手順書の作成

実施要項に基づき作成しました。

#### ④関係医療機関との連携

訪問指導を行っていたため普段より連携があります。必要時、指導報告内容を関係医療機関にフィードバックしています。

#### ⑤テレビ電話にて送受信された映像または音声を記録すること

「Yadoc」システムに記録機能はありません。そのため、ビデオカメラにて映像と音声を記録として残すことになりました。

### 遠隔服薬指導の難しさや注意点・心構え

遠隔服薬指導だからといって、普段の服薬指導と特に変わりはありません。ハードルが高いと感じている方も多いと思いますが、外来や訪問で指導することと何ら変わりはないと思います。もともと患者さんと薬局の関係性ができていたことも大きな要因かもしれません。

テレビ電話でもしっかり相手の表情が分かりますし、周りに映り込む背景からも患者さんがどのような場所にいるのかが把握でき、生活状況を知る上で重要な情報となります。もし初めての患者さんでも、臆することはないでしょう。

私たち薬剤師は国民の健康増進に寄与する社会的責任を担っています。対面であれ、画面越しであれ、患者さんに薬を理解してもらい服用してもらうことが大切なのではないでしょうか。

弊社では遠隔服薬指導を始めとした自社ノウハウを公開し、街の薬局との連携に取り組んでいます。詳しくはホームページを覗いていただくと幸いです。